

令和2年度 第2回 上京区まちづくり円卓会議（ライフスタイル部会）摘録

日 時： 令和2年11月18日（水） 午後7時～午後8時50分

場 所： 上京区総合庁舎4階 区民交流スペース

出席者： 【委員】小谷委員，高橋委員，狭間委員，西田委員，小野委員，寺尾委員，
同志社大学ボランティア支援室（斎藤）
（欠席：岸本委員，鈴江委員）

【進行】松井まちづくりアドバイザー，神原地域支援係長

【職員】三谷地域力推進室長

議題

（1）まちづくりの基本理念について

委員 将来像1の「幸せを分かち合うまち」は取組イメージがしづらい。

委員 文化を強調しすぎて，抽象的な表現になっている気がする。

委員 この部会ではないが，15ページの将来像3の賑わいを創出したら，豊かさを実感できるみたいな感じだが，豊かさは賑わいだけではないのではないか。豊かさと賑わいは必ずしもイコールではないと思う。それと，「上京人の気概」という表現が少し気になる。

委員 将来像2の「心安らぐ」も少し気になる。今風の言葉ではない感じがする。縁起が悪い言葉のようにも感じることができる。

委員 一言で分かる言葉にしたほうが良い。長々と書いてあっても見てもらえない。逆に，これは何だろうと思わせるようなキャッチコピーにしたほうが良い。そこに何が含まれているかが重要であり，狭めない方がよい。たくさんの意味合いを含めている方が良いと思う。

未来は，これまでと同じではない。今とは違う5年・10年後の未来を想像し，それを言葉で書く。今は違和感があっても良い。これまでの円卓会議で話し合い，事務局がまとめてくれたものを，もう少し洗練すれば良い。この文書は現在ではなく未来を想定している。私はこの新しいキャッチコピーでも良いと感じる。

委員 議論のポイントが，コロナの影響もあり，変わっている。

少なくとも将来像について，この状態でもし違和感があるのなら，後ほど，しっかり議論し，改めて考えていけば良いと思う。

（2）将来像「幸せを分かち合うまち」について

委員 将来像1については，「分かち合う」を言い換えたら，ライフスタイルや価値観，多様性を尊重し合うということか。

進行 そのとおり。

委員 方針についてだが，上京は文化が好きだと強く感じる。少し誇張しすぎである気もする。

委員 面白い事例があって，よくお寺をお茶の先生とかに使ってもらうのだが，本当にやりたかったのは，お稽古場のシェアをしたかったということだと聞いた。皆がひとつずつ持てるはずがない。文化の継承をするのでも，立場を超えた多彩な絆がいる。ひとりでこだわっていたら，できない人はそこで終わってしまう。場所がない人はできない。では，どんな稽古場が必要かとなると，例えば庭が見えるや，畳があるとなると，その環境があるところが誰でも使えるようなシステムや仲間づくりをする必要があるかもしれない。

この話から，バラバラではなく，この3つの方針が上京全部のライフスタイルを，ひとつのこと

にまとめられているようなものにしてはどうか。

委員 方針3についてだが、人にも環境にも優しいことが、イコール、エコだとしかとられない印象がある。エコな暮らしがイコール優しいまちづくりというのは少し違う感じがする。

コロナになったとき、これで食糧難になったら、庭全部を畑にしてシェアしようと思っていた。それは、エコとは少し考え方が違う気がする。上から言われているエコと、本当に私たちや地球にとって優しい環境というのが、イコール、エコなのかと考えている。

委員 古着を着るというのはエコなのか。文化との関わり的に少しニュアンスが違う気がする。物を大切にすることがエコ、というわけではない。もう少し違う表現が付け加えられるのではないか。本当の豊かさみたいなものと、優しいまちづくりがつながっているようにしたいと感じている。

委員 エシカル消費とあるが、これは良いと思う。

委員 エシカルとは「倫理的、道徳的」という意味。法的な縛りはないけれど、多くの人たちが正しいと思うことで、人間が本来持つ良心から発生した社会的な規範のこと。エシカルとは、根底には一般的定義が流れているものの、特に「人や地球環境、社会、地域に配慮した考え方や行動」のことを指す。エシカルは形容詞であるため、様々な名詞と組み合わせることで、その意味は多様に広がる。例えば、「地域の活性化や雇用なども含む、人や地球環境、社会に配慮した消費やサービス」のことを「エシカル消費」と言う。

委員 例えば、空いている町家をお茶教室としてシェアするといったことは、エコとは言わない。

委員 それが本当の優しいまちづくり。そこをそういったスペースにするために、誰々さんが来たよとか新しい世界の提案があるかもしれない。

委員 それだと、むしろ方針1の「文化を大切にするまちづくり」とかに入れる話ではないかと思う。

委員 方針1の文化とあるが、文化ばかりを入れたらいけないのではないかと思う。

委員 文化というか、物を大切にする精神を引き継いで、大事な暮らしを育み伝えていく。

委員 上京だから文化と言っているとはいけない。文化、文化と言うのは上京だけである。

委員 ここには、暮らしの中に息づく文化を大切にしたいという話があって、もちろん歴史とかがあるので、地域行事等でわかりやすく捉えられているものもあると思う。そのあたりの言葉が、方針1になると簡潔になりすぎて、集約しすぎてしまっていると感じる部分があるが、取組を見ていると、暮らしに息づく豊かな文化の継承発展等である程度拾えている部分もあると感じる。

方針3はライフスタイルの中の環境面のことを拾うことを前提として、それを表す言葉としてどちらがいいかという方向を考える必要がある。

エシカルの要素を反映させるのは、方向性が違うような気がする。エシカルは根本的にはフェアトレードとかに馴染む話で、環境等も最近ではエシカルの概念が含まれるが、倫理的なものでいうと、生態系の影響を考えずにどんどん消費することへの倫理観、道徳観の話になる。

エシカルを方針3の方で考えると話が少し混同するというか、また切り口が変わるのではないかと感じる。

進行 エシカルの感覚が暮らしの文化に寄るのであれば、その分の施策が入ってくるのでしょうか。

委員 そこに入ってくるのかを議論して、それとは別に、「人に優しい」と「環境に優しい」が一致するかをもう少し話してみてもいいのではないか。

委員 人にも環境にも、となっているから、どうしても今の話になる。

委員 ただ単に環境だけをこっちに載せていけば、方針としては良いかもしれない。

委員 どちらでも良いというに変だが、環境の面で捉えてもいいかと思う面もある。好奇心のままに色々なものをどんどん買い替えるライフスタイルではなく、今は自分の大切な思い出とかがあるもの、おじいちゃん・おばあちゃんが使っていたものとか、誰かの思いを引き継いだものを大事に使っていくのも、ある意味、エコではないかと感じる。結局、ものを大事にする精神が環境につながる。

委員 方針の言葉の下に、もう少し文章を足して、施策が分かるようにしてはどうか。

進行 人にも環境にも優しいという表現に、例えば思いが伝わるものを入れるとか。人と環境がイコールなことに違和感があるのか。

委員 一読しただけでは、その深みがわかりにくい。具体的な施策の部分とのつながりが見えにくい。

委員 エコという方法のイメージで、エシカルは個々の姿勢や精神性のイメージがある。

進行 暮らしの文化の方に精神的な表現を含めたものとして足すか、環境の中でもう少し、エコを全面に出すか、エシカルの部分が見える形にするか。

委員 ここのリーディングプロジェクトにはすでに、「環境保全やエシカル消費」と書いている。わかりやすくした方がいいのではないか。

委員 エシカルという言葉は個人レベルの感じがしている。区としてやっていくではなく、自分を変えますよという話の気がしている。

進行 個人的な価値観の部分でエシカルか否かを選択する部分ではないか。ライフスタイル部会はそのようなところにどっぷり足を踏み入れている部会だから、入っても問題はないかと思うが、そういう意味では結構全部が個人でどうするかがある。

委員 方針2の内容を、行政として力添えするのはイメージが湧くが、方針1も取り上げるとなると、イメージがしづらい。

委員 エシカルという言葉が仮に入ってくるとすると、自然破壊につながるのではないか。

進行 エシカルが消費活動に直結するとそういうことになるのかもしれない。

委員 エコでつながるまちづくりの中にエシカルが入っていたが、自分には作り手のためにというイメージがある。エコに入っているとぼんやりしている。

委員 推進施策2のエコでつながるまちづくりを「エコで、エシカルでつながるまちづくり」とかはどうか。

委員 ちょっとそれは広すぎるかもしれない。前のタイトルが地球環境にやさしいであり、環境面をとりあげる部分なので、環境のことだけではないエシカルの文言は少し広い。

進行 ここにエシカルがさらっと入っていることで余計に混乱しているのかもしれない。あえてエシカルを消すというのも良いかもしれない。

委員 エコかエシカルかの2者択一ではない。

委員 エコという言葉が広い。

委員 エコが広いですが、エコがエシカルを含んでいる上位概念でもない。エコとエシカルは重なっている。置き換えるイメージとは少し違う。議論している論点がエシカルに集中しすぎている。

進行 視点を変えて、推進施策を見ると、方針1でまず、「暮らしに息づく豊かな文化」、2つめに「文化庁等」、方針2では「地域の絆を大切にする」という地域コミュニティ的な話。2つ目に多様な主体が重なり合うまちづくり。施策そのものはカバーしきれているか。足りない分はないか。

委員 他の部会が分からないので、どこかで含まれているのかもしれないが、行事等は言い方をネガティブにいうと縮小、ポジティブに言うとは、複数が統合する。細かくそれぞれの幸せに分かれるといながら、大きなものは統合していく。それは別の部会のところで言っているのかなと気になった。

人も少なくなっていくため、一緒にやっていくことで、より良い中身になってまとめていくというのがどこかにあるのか。

委員 実際にやっている人は縮小とってしまうかもしれないが、人も少なくなっていくので、それを一緒にしていくみたいな形ではないかと思う。そしてより良い中身にしていく、まとめていくのかなと思った。

委員 想定されることだから、そのあたりにちょっと入っているくらいが良いかなと思う。様々な会議が実施されており、今止めると次できるかわからないと言われているが、減っていくと思う。2つ

やっていたけれど、1つになるかもしれないし、そこが、ネガティブでなくて、絆でつながるみたいなのが他の部会になれば、少し入れた方が良くのかもしれない。

明らかに想定されるので、それをポジティブな形でもっていかないといけない。方針1に年次行事の継続と書いてあるが、今まで通りにはならないと考える。

予算も減っていく中で、もっと質が高かったり、絆が深まったり、大きくはなくても、ひとつにまとまった方へシフトしていくのではないかと。

委員 縮小すると書くとおかしいけれど、その意味合いをどこかに入れたほうがいいのか。

委員 方針2のところが、そういった話を踏まえて、多様な絆という書き方に変わったのだと思う。

委員 方針3で「人にも環境にもやさしい」の部分で少し議論があった。それと方針1で旧来型の文化の部分にとどまってしまうているが、もう少し身近な文化というか、そこら辺をもう少し吸い上げる表現ということで良いか。

方針2は最後に話をしたが、結びつきの在り方を捉えなおすという話があったので、そのあたりをもう少し落とし込んだ表現が入らないか。

あと、個人的には方針1の説明文「都市格」という言葉が気になった。

進行 少し偉そうに感じる部分もあるでしょうか。

結局、エシカルの表現は、ここで引っ張り出さなくてもいいかなとも感じる。

委員 ただ、リーディングプロジェクトに入っている言葉なので、私はいいと思う。

結局、自分の暮らしのことを大事にしていくと環境にも優しいことにつながると、捉えれば良い話かなと思う。環境に良いことは、ある意味不便であることも求められるが、一方で環境にいいことをやることで、大事にしたいものが何であるかを見つめなおす機会になったりもする。最終的に、それは人にもやさしいことだと感じる。

ただ、これが人にも環境にも、とシンプルに並べることは、少し変えた方がいいのかもしれない。

個人的には、前回の結果から、結構変化が大きかったのかなと思うので、そのへんがうまく言葉として拾えているのかなという確認。伝統的な行事にあまりこだわらないとかは、大きなステップかなと思う。

委員 「上京人」という表現が、正しく理解できない。

委員 「上京人」の概念を考えるきっかけにはなるのではないかと。

委員 例えば、お茶も、自分でたてて自分で飲むとか、お盆で順番に回して自分のお茶しか触らないとか、その状態で大寄せの茶会が復活するとは思えない。そういうのをなくならないように、どうするか。どう変化するのか。難しいけれど考えていかななくてははいけない。

【予定時間につき終了】

(3) 部会での意見の総括

- ・ 前回の議論から大きく変わったのが、コロナの影響とか従来からの少子化を踏まえて、少し個々の問題・関心とか、そういった点も大事にしたようなライフスタイルの共有。分かち合う部分を考えてのまちづくりに捉え方を切り替えた。
- ・ 直近の議論であったのだが、方針2の多様な絆で支え合うまちづくりのところで、地域としての今までの伝統行事や自治会等を大事にしたいが、なかなかそれが難しい中で、個人の関心等を手掛かりにして、絆を結んでいくことが地域を支えることにつながり、組織になるのではないかとこの考え方をまとめられるかで議論した。

以上